

第4回阪南みらい会議 会議要旨

日時：平成22年3月25日(木)
19:00～21:30
場所：市役所3階 全員協議会室

出席者

委員	13名(欠席者8名)
アドバイザー	近畿大学 久教授
事務局	政策推進課5名、パシフィックコンサルタンツ(株)1名

(1) 委員の想いについて

(主な意見)

- ・市の財政状況が実質赤字になっている。今後、どうすべきか。
- ・少子高齢化が急速に進んでいるように思う。
- ・地域の自治会長に加え、ボランティア活動やNPOの活動に参画しているが、今後、新たな活動を立ち上げようと考えている。
- ・阪南市の人口は58,000人強で15歳未満の割合が全体の14%、65歳以上の割合が全体の21.6%であり、高齢化が心配である。
- ・高齢化により高齢の人が大勢いるので、その人たちを有効に活用するののも一つの方法だと思う。
- ・市財政は厳しいが、悲観的なことを言っても仕方がない。今後、投機的な事業を行うことは、非常に難しいように感じている。そのため、子どもや孫のためにも何らかの知恵を出していく必要がある。
- ・これからは市民や子ども、働いている方、高齢者、市民全体に対して優しい阪南市にしなければならない。行政や市民が手を取り合い、近隣どうし助け合っていける市にしたい。
- ・環境も考えなければならない。温暖化以外にも、自然環境保護や歴史文化を保存することも環境に繋がる。環境に優しい阪南市であるべきだ。
- ・市民ひとりひとりが気持ちを変えることが大事だと思う。何かあればすぐ行政に依頼するのではなく、自分でできることは自分たちでできる市民になる必要がある。市が存続していくためには、市民自体が自立しなければならない。

- ・海のそばに住めるところは大阪近郊では少ない。阪南市は気候も温暖で都会にも遠くないし、物価が安く食べ物もおいしい。そして、夕日がきれいで、海鳥の鳴き声で目が覚めるという贅沢な住環境である。しかし、残念ながら浜には浮遊物やペットの糞、遊びに来た人が捨てていくごみが目立つ。良い住環境をキープしていきたい。
- ・下水道を普及させると海が綺麗になり、住みよい緑とか環境問題にも関わっていくる。
- ・公民館とか空き家とかを利用したコミュニティカフェを作り、子育てで困っている方や高齢者の方、子どもといった皆が集い、安心して過ごせる居場所を作りたい。
- ・市内に住民センターが沢山あるので、地域の身近な場所で皆がお茶が飲めたり、趣味の手芸を教えてもらったり、まさに地域に身近な拠点づくりをやっていきたい
- ・阪南市に住んで良かった、引っ越してきて良かったと思ってもらえるようなまちにしたい。
- ・関西国際空港を活用し、厳しい財政状況の中、地場産業を活性化させる必要がある。
- ・財政、教育、高齢化、病院問題と閉塞感の話題ばかりなので、少しでもみらい会議の委員の皆さんと知恵を出し、活力ある阪南市にしたい。
- ・せんなん里海公園を活用し、泉州国際マラソンのコースを阪南市まで延ばしてはどうか。
- ・漁業や農業の活性化のため、「みちの駅」みたいなものを作ってはどうか。
- ・し尿処理場で浄化され排出されている水は、排出基準に合致したきれいな水であるため、何かに利活用できないか。
- ・活力ある阪南市をつくるために、何かイベントを考えていたら良いのではないか。
- ・教育水準はかなり高いと聞かすが、一方で道徳的な面が弱いと聞いたため、道徳教育が必要であると考える。

～久教授アドバイス～

- ・市財政のことを議論することは大切であるが、どこの自治体でも財政は厳しくなっている。日本だけでなく、世界中の産業、経済が低下している。右肩上がりのことを考えるのは厳しい社会になっていく。
- ・ついては、限られたお金や資源を前提に夢を描けないのか、あるモノをどう有効活用し、ブランディングを進めるのかということは、知恵とかアイデアの問題である。お金があれば誰でもできる。
- ・同じモノでもPRの仕方をうまくすれば、うまくいくかもしれない。
- ・先ほどじゃここうの話があったが、最近では地元泉州の人も食べなくなった。しかし、岸和田市では産直所を作り、漁協と農協が一緒になって、山と海がタイアップできるものとして、水ナスと海老じゃこを使ったじゃここうを売り出すことによって、海側と山側を繋ぎ、さらに地域文化ということで伝統を守って発展しようとしている。これはアイデアである。

- ・アイデアというのは発想力が大事であり、分析をいくらしても出てこない。分析も重要だがプラスの発想というのが必要で、他の事例をもってきて阪南市に当てはめても駄目である。
- ・分析力と発想力が重なって知恵となり、それがお金に換わることもあるし、おもしろい展開になっていくこともある。データや財政も重要だが、それ以外の部分も半分くらいは議論していかないと、阪南市の将来を描けないと思う。バランス良く議論した方が良いかなと思う。

(2) 最後に

- ・財政などの枠組みのなかで考えようとしているが、もう少し柔らかい頭で考えていこうと思う。夢を広げていってから、そういったことを考えていこうと思う。
- ・次回以降は、先生のアドバイスのように半分ぐらいはアイデアを出す議論、半分は現実的な話を入れながらしていきたい。
- ・次回は、欠席されている方や話を聞いていない方もいるので、今日のような会議とする。
- ・次回は、3月30日(火)の午後7時から同じ場所で開催する。